

県産材製材品の表面線量調査結果（第20回）について

1 目的

県内の製材工場から出荷される県産材の表面放射線量を確認するため、県内工場における製材品を定期的（3か月に1回）に測定し、その結果を広く県民及び関係者へ情報提供する。

2 調査時期 平成28年9月2日～平成28年9月30日

3 調査事業者数

対象工場聞き取り調査の結果、現在県産材を製材、出荷している134事業者について調査した。

4 調査方法（製材品の表面線量調査）

各調査工場の出荷製品について、柱、梁、板材等、品目毎に3検体以上を抽出し、製材品の表面線量（単位cpm）を測定した。

【調査事業者の内訳】

区分	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	合計
事業者数	17	32	19	25	10	11	20	134
検体数(本)	92	283	150	158	62	74	197	1,016

5 調査結果

現在県産材が出荷されている134事業者における表面線量調査の結果、表面線量の最大値は33cpm（0.001 μ Sv/h*に相当）であった。

33cpmの測定値について、放射線防護に詳しい、国立大学法人長崎大学 原爆後障害医療研究所放射線リスク制御部門 放射線生物・防護学分野 松田尚樹教授及び 防衛大学校応用科学群 応用物理学科 高田真志教授に確認したところ、環境や健康への影響はないとの評価が得られた。

※参考	震災前の福島市の空間線量	(H22.2.16)	0.04	μ Sv/h
	東京都新宿区における空間線量	(H28.11.4)	0.032	μ SV/h

【調査結果内訳】

区分	表面線量（cpm）				合計
	未検出	1～20	21～40	41～	
事業者数	52	73	9	0	134
検体数（本）	714	284	18	0	1,016

最大値：	33cpm
最小値：	0cpm
平均値：	2cpm

※使用測定機器 GM管式サーベイメータ（日立アロカメディカル製 TGS-146B）

6 現在までの調査結果について

区分	調査時期	工場数	検体数	表面線量の最大値 (cpm)	備考
第1回	H23.11.10 ~12.7	31	544	50	県内の主要な工場について実施した。
第2回	H24.1.25 ~3.8	49	321	92	線量の高い県北、相双、県中の一部地域において稼働している全ての工場で実施した。
第3回	H24.6.4 ~7.24	135	1,058	61	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第4回	H24.9.3 ~11.6	156	1,224	51	〃
第5回	H24.11.22 ~H25.2.4	135	1,177	31	〃
第6回	H25.3.1~ H25.5.31	121	1,076	35	〃
第7回	H25.5.27~ H25.7.19	153	1,301	24	〃
第8回	H25.8.28~ H25.10.30	134	1,124	25	〃
第9回	H25.11.26 ~H26.1.24	132	1,097	28	〃
第10回	H26.2.20~ H26.3.26	133	1,078	24	〃
第11回	H26.5.26~ H26.6.30	144	1,071	28	〃
第12回	H26.8.28~ H26.10.2	146	1,035	22	〃
第13回	H26.11.17~ H26.12.22	134	906	28	〃
第14回	H27.2.10~ H27.3.24	133	995	21	〃
第15回	H27.6.2~ H27.7.2	147	1,054	41	〃
第16回	H27.9.1~ H27.10.8	142	979	41	〃
第17回	H27.12.3~ H28.1.19	133	975	45	〃
第18回	H28.2.26~ H28.4.19	130	936	52	〃
第19回	H28.6.8~ H28.7.15	141	1,000	28	〃
今回調査	H28.9.2~ H28.9.30	134	1,016	33	〃

<参考> cpm (測定値) から $\mu\text{Sv/h}$ への換算表

計測器の指示値 (バックグラウンドを差し引いた値) (cpm)	$\mu\text{Sv/h}$
100	0.0033

国立研究開発法人産業技術総合研究所作成資料を引用